

実技系研修A～E (13:00～17:30) 相模原キャンパス

*1 つお選びください (定員に達し次第締め切ります)。午前中の講義系研修 I・II から引き続き受講ください。

A. 実技系 (版画) : 『エッチング・腐食液を用いた銅版画』

定員 : 15 名

内容 : 銅版画の技法のひとつであるエッチングを体験します。エッチングとは、銅板を腐食液で溶かして凹部を作り、この凹部にインクを詰め、プレス機で刷り取る技法です。直刻法に比べて描画が簡単で滑らかな線を描く事ができます。

持ち物 : 17×12cm の下絵 (縦横自由) / 筆記用具 / マスク (粉塵防御のため) / 汚れても良い服装 (エプロン等)



＜講師＞ 阿部大介 准教授
芸術学部 美術学科
洋画専攻

B. 実技系 (立体アート) : 『木彫技法 — 木目と戯れる線』

定員 : 10 名

内容 : 街路や公園や山など、身の回りにたくさん生えていて、見慣れたものとなっている木。木は太古の昔から存在し、地球上に数万種類あると言われ、数千年生きているものもあります。同じものは一つとして存在しない素材です。今回は木の魅力の一つである木目をきっかけに、木と対話するかのように線を描き、彫刻刀を使って、木の板からレリーフ技法を使った線表現を体験します。併せて、木についての事、木から形を彫り出す木彫の技術、そして道具の使い方、研ぎ方の話もしたいと思います。正しい知識を得る事で、怪我を防ぎ、安全に取り組む事ができます。

持ち物 : 汚れてもいい服装、薄手の作業用手袋



＜講師＞ 山本桂輔 准教授
芸術学部 美術学科
立体アート専攻

C. 実技系 (写真) : 『ポートレイトを撮る — 撮影からプリントまで』

定員 : 10 名

内容 : 今やひとり一台スマホ時代。スマホには高性能なカメラがついているので、ひとり一台カメラを持っているということになります。スマホで撮影しても撮影後に液晶画面を見るだけで中々プリントをする人はいないのではないのでしょうか。今回は、一眼レフで参加者をお互いに撮影します。本学のスタジオでストロボを使って撮影をして画像処理の後、正しいプロファイルでプリントまで経験していただきます。プリントをすることでより写真の魅力を感じてもらえればと思います。プリントと撮影データはお持ち帰りいただきます。

持ち物 : USB メモリ

※事前に Adobe ID の作成が必要です。申込完了後のメールにて手順をお知らせします。



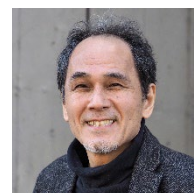
＜講師＞ 玉川竜 教授
芸術学部 デザイン・工芸学科
ヴィジュアルデザイン専攻

D. 実技系 (プロダクトデザイン) : 『3D スキャナーと 3D プリンターを使ってみる』

定員 : 10 名

内容 : 近年、3D プリンター&3D スキャナーの低価格化と高速化によってプロダクトデザインの造形検討には欠かせない機材となっています。一般的には、3D データを作成して 3D プリンターで出力しますが、今回は、手作業で粘土造形したものを 3D スキャナーで「デジタル化」し、3D プリンターでストラップを制作します。イメージを素早く自由に行うことのできる手作業によって、拡大・縮小や左右反転、複製など可能性が広がります。

持ち物 : 粘土で作るもののスケッチを用意してください



＜講師＞ 春日亀美智雄 教授
芸術学部 デザイン・工芸学科
プロダクトデザイン専攻

E. 実技系 (工芸[陶]) : 『電気窯で備前風 焼き締め皿を焼く／野焼きに挑戦』

定員 : 15 名

内容 : 釉薬を使わず、2 種類の焼成方法で作品を焼き仕上げます。

1 つは、電気窯でも備前焼のような味のある焼き上がりを目指します。窯詰めの作業が焼き上がりに影響するため、作品の窯詰めの作業を体験して頂きます。

2 つめは、屋外での野焼きで作品を仕上げます。レンガを組み、もみ殻 (木くず) を燻し作品を炭化させる焼成方法です。こちらもレンガを組むところから体験して頂けます。

※焼成方法の研修となるため、作品はこちらで事前にご用意いたします。

【作品】電気窯焼き締め作品 : 板皿 2 枚 / 野焼き作品 : 作品 1 点

※研修日当日は作品のお持ち帰りはできません。後日配送となります。

持ち物 : エプロン・軍手・汚れても大丈夫な服装



＜講師＞ 小山暁子 助教
芸術学部 デザイン・工芸学科
工芸専攻